

令和元年度鹿児島港中央港区開発推進協議会 研修会報告書

令和2年2月14日（金）13：30から、標記研修会を開催しました。

今回は、中央港区開発に関する知識の習得を図るため、「鹿児島港の事業概要について」と「みんなでつくるまちづくり」を演題とし、約60名の会員に参加していただきました。

柴立 鹿児島港中央港区開発推進協議会会長から、開発の現状及び将来見通し等を含めた挨拶がなされました。

研修に入る前に、事務局から最近の動きとして、鹿児島市議会の令和元年第3回定例会（9月）において、当協議会の顧問である中島蔵人市議会議員の個人質問の内容が紹介されました。中央港区関係では、クルーズ船の寄港状況や受け入れ体制の整備状況、鹿児島港臨港道路（鴨池中央港区線）の整備事業等について質疑がなされておりました。

また、木材港の埋立について、県土木部の北菌港湾対策監から、次のような説明がありました。

- ① 公共事業で発生する残土をダンプトラックで運搬して埋め立てる。
- ② 埋立の期間は13年程度を見込んでいる。
- ③ 工事の内容等が具体的に決まった時点で地域の皆様に説明したい。

この説明に対し、会員から、旧木材港の西南側角地に防潮堤があり、道路が狭く、見通しも悪い。埋め立てを始める時点で、当該防潮堤を撤去してほしい旨の要望がありました。

その後研修に入り、国土交通省鹿児島港湾空港整備事務所の甲斐所長から、「鹿児島港の事業概要について」と題して、スライドを活用し丁寧な説明がありました。

次に鹿児島市都市計画課の米森主査から「みんなでつくるまちづくり」と題して、スライドと資料を活用して丁寧な説明がありました。

研修終了後質疑応答があり、内容は以下のとおりです。

- (Q) マリンポートに桜島フェリーを接岸できないか。緊急時の避難用として、また、大隅方面への輸送手段として有効と考える。高速船は単価が高く使づらい。フェリーは大型バスも乗せられ渋滞緩和にもつながる。
- (A) 桜島フェリーについては、海上船舶を使った交通手段の一つとして考えて

おり、鹿児島市の担当部局と話し合いを行っているところ。

- (Q) 東開町に映画館を造れるようにしてほしい。
- (A) 鹿児島市としては、R3年度に向けて、20年後のまちづくりについて基本的な構想を取りまとめることとしている。木材団地は最近10年ぐらいで大きく変貌しており、どのようなまちづくりを進めていくかについて内部でも議論しているところ。地域の皆様の意見をお聞きしながら考えていきたい。
- (Q) 地域の方々から要望があればそれに応じるということか。
- (A) 市全体として地域バランスを考慮し、皆様の意見を聴きながら進めていきたい。
- (Q) 木材港の埋立については、産業道路の交通渋滞が激しくなると心配している。臨港道路の建設目的は、港湾間の連携と渋滞緩和と聞いている。このような中で、臨港道路の建設は遅れ、一方で木材港を埋め立てる計画であるという。今まで港湾の埋立をダンプトラックで行った事例はないのか、パイプラインで行っていると思う。これまでの経験を活かしてほしい。臨港道路を早期に完成させるため、海底トンネル等への工法変更はできないのか、もう一度原点に戻って検討してほしい。
- (A) 木材港の埋立土砂はトータルで100万立法メートル、陸上からダンプトラックで搬入する。13年かけて建設発生土が出たら受け入れるという流れ。1日当たり何台になるか等検討し、皆様の理解を得た上で施工していきたい。
- 臨港道路の工法については、コスト面等いろいろ検討して決定した。現在南港で操業されている皆様には、移転を含めた検討をお願いしているところ。
- (A) 会員より情報提供有り
- 木材産業協同組合が所有していた水中貯木場 7,000 坪は、ダンプトラックで埋立を行った。
- (Q) 大型巡視艇が接岸するという計画が、地元新聞で報道されたが唐突であった。説明してほしい。
- (A) 当事業は海上保安庁の事業であるが、鹿児島港湾空港整備事務所で施工している。谷山のIHIの前に最大8バースを設置する計画で、R3年度ま

でに2バースを完成させる予定で進めている。

今回、講師を引き受けていただきました鹿児島港湾空港整備事務所 甲斐所長様、鹿児島市都市計画課 米森主査様には、深く感謝申し上げます。

今回の研修は、鹿児島港の整備計画や東開町の土地開発規制等について、具体的でわかりやすい講演内容で大変有意義な研修だったと思います。今後とも地域振興につながる開発計画を推進するための研修を行ってまいります。

協議会活動や研修等に関する意見等ありましたら、事務局までご連絡ください。